

平成 29 年度
南・北図書館及び南・北コミュニティ会館指定管理者管理運営状況調書
担当課 興風図書館

| 評価基準 | 評価項目 | 指定管理者 自己評価 | 担当課評価 | 特記事項 |
|-------------------------------------|------------------------|---------------|-------|------|
| 利用者の平等利用が確保されること | 平等利用確保への取組 | B | B | |
| | 児童・障がい者・高齢者への配慮 | B | B | |
| 施設の効用（設置目的）が最大限発揮されるものであること | 施設の利用促進に向けた取組 | B | B | |
| | 児童・青少年層への読書普及のための取組 | B | B | |
| | レファレンスサービス充実のための取組 | B | B | |
| | サービス向上のための取組 | B | B | |
| | 自主事業の取組 | B | B | |
| 個人情報の適切な保護が図られていること | 個人情報保護のための取組 | B | B | |
| 緊急時の危機管理体制が確立されていること | 施設の安全管理、緊急時の危機管理のための取組 | B | B | |
| | 利用者の要望及び苦情への対応の取組 | B | B | |
| 現金の取扱い等の経理処理が適切に行われていること | 現金の取扱い等の適切な経理処理についての取組 | B | B | |
| 管理経費の縮減が図られるものであること | 指定管理に係る経費の収支見込について | B | B | |
| | 管理経費縮減のための取組 | B | B | |
| 地元住民の雇用、物品及び役務の調達に際し、地元業者へ配慮すること | 地元住民の雇用及び地元業者への配慮 | B | B | |
| 事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること | 人員配置について | B | B | |
| | 職員の指揮監督・管理体制について | B | B | |
| | 人材育成の取組 | B | B | |

総合所見

指定管理者更新後の初年度となる平成 29 年度は、各種の利用促進に向けた取組や、児童、青少年層への読書普及のための取組を通じて利用促進に努めましたが、図書館の利用状況は平成 29 年 12 月末時点の前年同月比で南図書館の貸出冊数が - 1,601 冊（約 0.9%減）、北図書館の貸出冊数が - 2,054 冊（約 1.2%減）と、それぞれ減少しています。

貸出冊数の減少は、インターネットや携帯端末、電子書籍等の普及による情報取得手段（メディア利用形態）の多様化の影響により、貸出冊数増減のベースとなる利用登録者が、平成 29 年 12 月末時点の前年同月比で南図書館 - 175 人（約 1.8%減）、北図書館 - 127 人（約 1.2%減）と減少していることが原因として考えられます。

また、コミュニティ会館の利用状況は、南コミュニティ会館の利用件数が - 101 件（約 2.8%減）、利用人数が - 1,336 人（約 3.4%減）となり、北コミュニティ会館は利用件数が - 53 件（約 1.3%減）、利

用人数は-1,560人(約3.1%減)と、南・北ともに減少しています。

コミュニティ会館の利用件数の減少の原因は、これまでコミュニティ会館を定期的に利用していた団体が高齢化等の理由により利用しなくなってしまったことなどが考えられますが、各種の取組などを通じて更なる利用促進に努めてもらいたい。

各評価項目については、すべての評価項目についてBと自己評価しています。

利用促進に向けた取組として、各種サインの掲示や図書館掲示物の工夫、企画展示の実施、しかけ絵本展の開催、施設全体の企画展示、図書リサイクル事業の実施、広報紙の発行、一般利用者向け事業(「本のお楽しみ袋」や「読書会」、「朗読会」、「講演会」、「生涯学習講座」、「視聴覚事業」、「大人のための調べ方講座」)の実施、高齢者向け事業(おはなし会や団体貸出、高齢者向け講座)などの各種事業が実施されています。

また、児童・青少年層への読書普及のための取組として、書架の工夫や季節替わりの児童特集展示コーナーの設置、ブックスタートの支援、育児支援講座の開催、「ぬいぐるみのおとまり会」、出張児童室「ひだまりのへや」の開催、おはなし会の開催、おはなしボランティアのスキルアップ講座の開催、おはなし会スペシャルの開催、季節に応じた各種イベント(「図書館こどもまつり」、「図書館ツアー」、「七夕飾り」、「夏休み子ども読書スタンプラリー」、「工作教室」、「科学教室」、「体験講座」)の開催、子どもたちの調べる力を育むための取組(「自由研究しゅくだいおたすけカウンターの設置」、「図書館を使った調べる学習コンクール優秀作品レプリカの展示」、「調べる学習支援講座」、「図書館を使った調べる学習コンクール(野田市版)表彰式」)の実施、地域の学校との連携、YA(ヤングアダルト)図書館サポーターの募集、利用者の年代に合わせた構成展示の実施等、事業計画のとおり様々な事業が実施されています。

レファレンスサービスの充実のための取組や、サービス向上のための取組、自主事業の取組、個人情報保護のための取組、施設の安全管理・緊急時の危機管理のための取組、利用者の要望及び苦情への対応の取組、現金等の取り扱い等の適切な経理処理についての取組、指定管理に係る経費縮減のための取組、地元住民の雇用及び地元業者への配慮なども業務計画書のとおり適切に実施されており、未実施の事業や代替で実施した事業もなく、業務計画書のとおり適切に実施されていることから、担当課としてすべての評価項目についてBと評価いたします。

人員配置、研修、施設の保守点検については、業務計画書のとおり実施されており、仕様書の水準を満たしていると認めます。

経費の収支見込は、収入については定期的に利用していた団体の減少によりコミュニティ会館の利用料金収入が342,365円少なくなる見込みであり、支出は社会情勢を背景とした賃金単価の上昇により人件費が2,099,166円、電気料の単価の上昇により光熱水費が438,691円、灯油の単価の上昇により燃料費が449,570円、それぞれ増える見込みですが、本社管理費を3,225,194円減らすことで調整し、収入額と支出額は同額となる見込みであり、収支状況は妥当なものと評価いたします。

指定管理者である共同事業体「野田TRCグループ」の代表構成団体である株式会社図書館流通センター及び構成団体であるTRCファシリティーズ株式会社は、損益計算書によると営業利益、経常利益、純利益ともに黒字となっており、経営基盤は安定しているものと評価いたします。

総合所見として、南・北図書館の貸出冊数及び南・北コミュニティ会館の利用人数が減少傾向にあるものの、施設の利用促進に向けた取組が数多く行われており、全般的にはおおむね適正に管理運営が行われていると評価いたします。